

ひがし

No. 248

56 7/20

広報

しらかわ

人口の動き

— 6月末住民登録人口から

世帯数	940世帯
人口	3,731人
転入	3人
転出	12人
出生	1人
死亡	3人
先月と比較して11人減	
昨年同月と比較して42人減	

■ 発行 岐阜県加茂郡東白川村

■ 編集 / 総務課 ■ 印刷 / 関市中部印刷

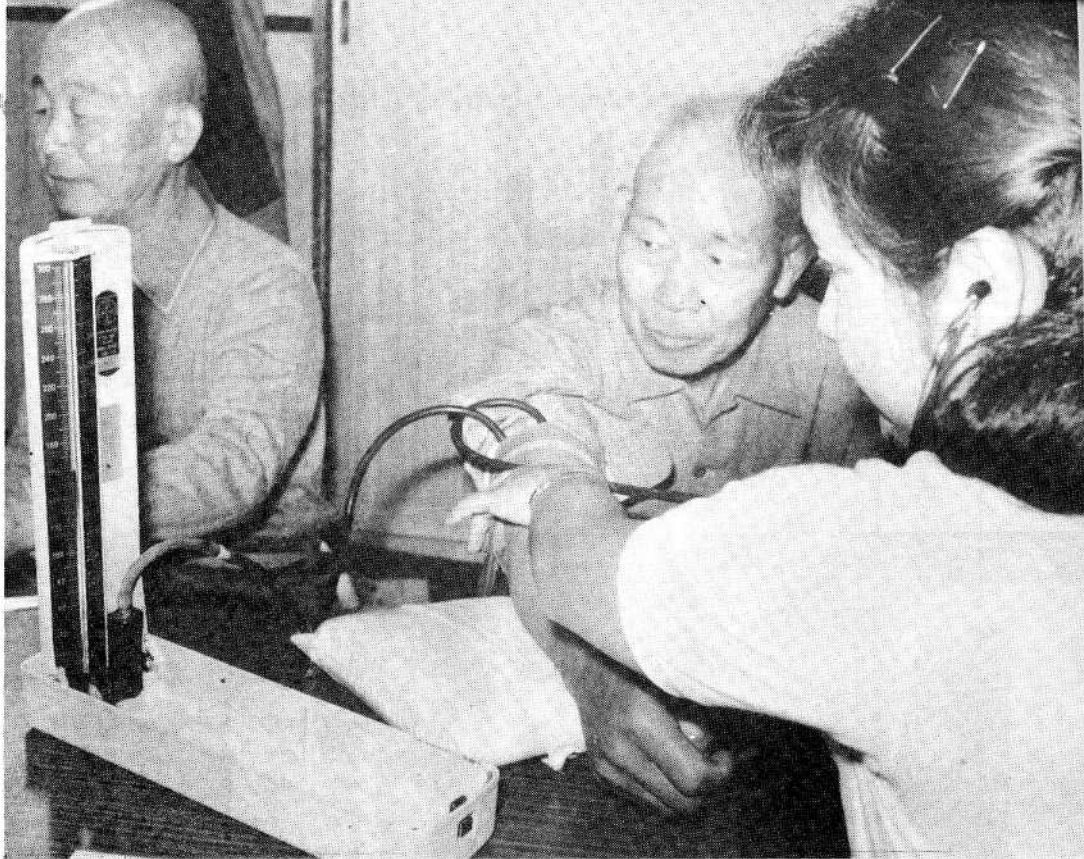


「たちばな会」 が茶加工実習

7月2日、神土茶業婦人部の有志で構成する「たちばな会」（藤井たえ会長・46人）は中通の高品質茶加工施設で、茶加工実習を行いました。この日の参加者は27人。各自持ち寄った生葉を使って、投入から仕上げまで約5時間、熱心に実習しました。

おもな内容

- 血圧アンケートの結果 P 2~3
- 青少年の主張大会 P 4
- 寄稿—ひたすら走る。... P 5
- 村誌解説講座がスタート P 6
- 参院岐阜地方区補選の結果 P 7
- 郡消防操法大会のもよう P 8
- 中央公民館図書室に広報コーナー新設 P 9
- トピック P 10
- けいじ板は P 4、5 の下欄



定着した健康への意識

血圧アンケートの結果まとまる

村では成人病予防検診を長期にわたって行ってきました。血圧管理に重点をおいた本村の検診は、心電図を使ったり、検査をどんだん行うなどのハデさはないものの、地道な保健指導が効を奏し、当初高かった村全体の血圧値が、今では低くなってきています。これは、脳血管疾患の予防に非常に大切なことです。この影には村民のみなさん一人ひとりの「自分の健康を守る」という意識の定着と相当の努力があることと推定されます。村では、この背景をさぐるう——と、この春「血圧管理をさらによくするためのアンケート」を行い、このほどその結果がまとまりました。調査は血圧に関する十五項目の質問からなり、対象者は村内に住んでおられる満三十歳以上の人二千三百四十七人。本号では、回答の中からとくに注目される項目を紹介します。

回答率は

七八・二三%

回答者は、男性八百六十八人、女性九百六十八人の計千八百三十六人。回答率は七八・二三%でまずまずの結果でした。

最初の質問「あなたはこの数年、健康に気がつかってきましたか」で、「気をつかった」と答えた人は回答者の三分の一を

個人差はあるものの、最低月に一回は血圧測定を……
——老人クラブ高砂会で

占めていました。男女別では女性はやや高いという結果でした。

「塩分ひかえた」 がトップ

「血圧を下げるため努力しましたか」では「努力した」、「少し努力した」と答えた人は男女合わせて六四・七%あり、多かれ少なかれ努力している人が多いという結果ができました。

この質問に関連した「努力した人」はどのようなことをしましたか」の中で「食べ物に気をつけた」と答えた人が男女ともに

いちばん多く全体の三九・四%ありました。

「食べ物はどうなことに気をつけましたか」の内訳は「塩分を少なめに」が四三・九%でトップ。次いで「野菜を多くとるようになった」の四〇・九%となつています。この回答でも、女性の回答率が高いという傾向があります。

共通して多い

「気をつかわない」

これを十歳ごとの年齢階層別に分けてみても、三十〜七十歳代に共通して「食べ物に気をつけた」が上位を占めています。

そのほか、比較的多い回答は「仕事で無理をしなくなった」、「じゅうぶん睡眠をとるようになった」。また、いちばん少なかったのは「運動をした」です。各年齢層の特徴として、六十



4年ぶりの血液検査

結果は予防検診時に

成人病予防検診の項目に、こころは血液検査が加わりました。予防検診該当者全員を対象とする大がかりなこの検査は4年ぶりのことです。

検査のための採血は7月7、8日の両日、村内22か所を巡回して行われ、採血本数は1,343本ありました。検査項目はコレステロール・中性脂肪・血色素・赤血球数・グリコヘモグロビンの5つ。動脈硬化の進行状態や貧血の状態などがわかります。

この結果がでるまでには時間がかかりますが、個人ごとに判定をしたのち、8月6日から13日まで村内13会場で行われる予防検診時に、保健婦が個別指導することになっています。

写真は、大明神クラブでの採血のもよう

(7月7日)

こうした結果から、みなさんの生活傾向を分類してみますと、健康に気をつかって生活しているグループと、そうでないグループに大別されます。が、前者の方が圧倒的に多く、自分の健

健康度確認 がまず第一

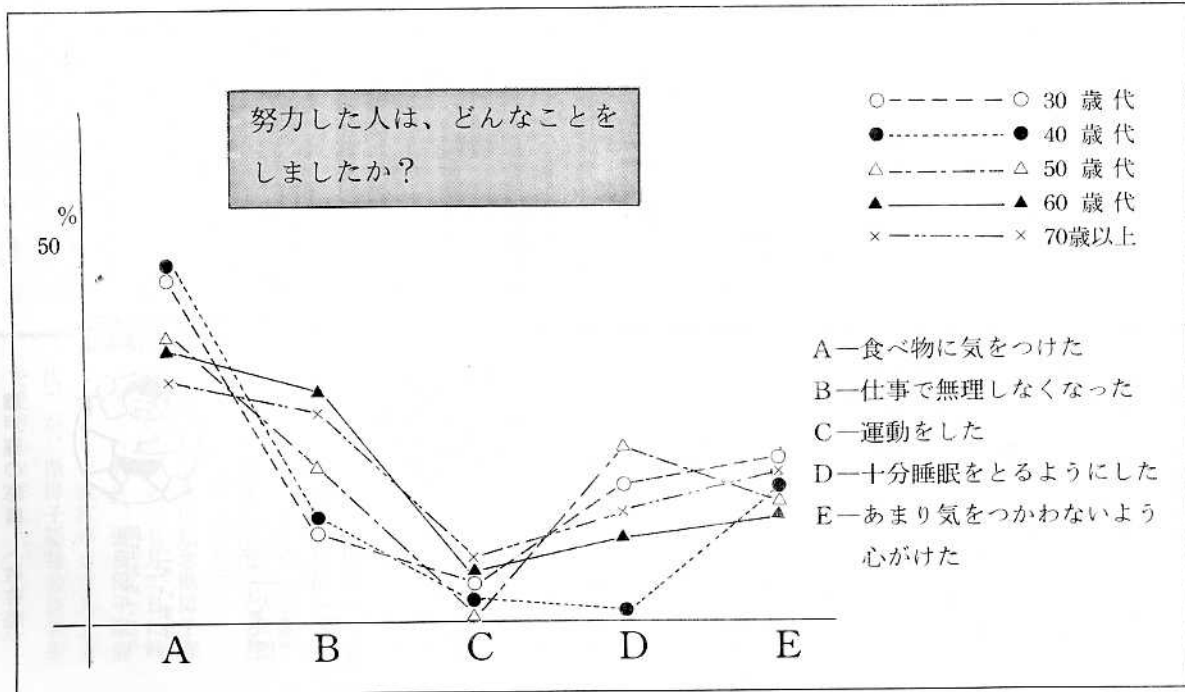
七十歳代の「仕事で無理をしないうえ、三十〜四十歳代の「じゅうぶん睡眠をとる」があげられます。とくに注目されるのは「あまり気をつかわないよう心がけた」が、各年齢層共通して比較的多いということです。

健康を考え、維持増進しているという前向きな姿勢がうかがわれます。この姿勢が良好な血圧値を維持していることはいうまでもありませんが、今後毎年一回の健康確認のチャンス——成人病予防検診を受け、自分の健康度を確認することがまず第一であり、それに見合った生活を自分でみつけ、実行することが大切だといえます。

期待される 食生活改善

ところで、今回の調査の中で

食べ物に気をつかい、血圧管理に結びつけている人が多いという結果がでましたが、この背景には、食生活改善事業の一つとして村が行ってきた栄養教室の修了生で組織する「食生活改善推進協議会」の陰の力があるようです。昨今の財政事情の厳しさを反映して、今年度から栄養教室は計画されないことになりましたが、同協議会員らの自主的な活動は活発に行われています。塩分をおさえた料理やコレステロール防止など、本村の成人病管理の基本的な考え方と密着した活動は、今後さらに効果を発揮することと期待されています。



夢や希望を堂々と

青少年の主張大会



活発な意見発表が行われた、青少年の主張大会
—村民センター大集会室で

村青少年の主張大会が六月二十日、村民センター大集会室で行われ、小学生から青年まで十六人の代表が約五分間の持ち時間を使って、自分の意見を発表しました。

この大会はこととして三回目。青少年が日ごろ思っていること、考えていることを発表し、村内各層の人たちにその意見を聴いてもらい、青少年の意識に対する理解と認識を深めてもらうというものです。

当日、会場には村内の役職者

ら約百人が集まり、それぞれの意見発表をうなずきながら聴いていました。

ではここで、ことしの意見発表の内容をいくつか紹介してみよう。

——ぼくは、大人になったら農業をやりたい。米づくりは減反政策など問題は多いが、ほ場整備も行われ、機械化によってやりやすくなると思う。

お茶やいろんな野菜も多くつくりたい。どんな研究してだれにも負けない農業をやってみよう。(今井誠君 小学六年)

——村では、昨年村民の誓いを発表し、その中の「気持ちのよいあいさつをかわし……」は、中学校の生徒会で私たちが村の人たちに声をかけ、あいさつの輪を広めようとしている。

私は毎朝出会う大人の人に声をかけるが、その人は「おー」としかいってくれない。その人はそれでいいかもしれないが、相手に対しても気持ちのよいあいさつをしてほしい。

私は今後も大きな声で、気持ちのよいあいさつを続けたい。

大人の人も協力してほしい。(今井裕香さん 中学二年)

——私は現在ジュニアリーダークラブに入り活動している。

私は東白川が大好き。そんな東白川で何か役に立ってる仕事がないものかと考え、将来進学して教師となり、この村で働きたい。夢かもしれないが、目標に向かって努力したい。(古田そのみさん 白川高校二年)

——今まではただ青年団の活動に参加するだけだったが、ことしは役を引き受け考え方も変わってきた。仲間といっしょに若いからこそできることを実行し、郷土のために役立ちたい。そして、青年団をいっそうすばらしいものにして行きたい。(三戸美穂さん 大明神)



ことしの発表内容の特徴は、単なる夢でなく、現実を踏まえ、た上で「私はこうしたい」という意見が多く、聴いていた人たちは「もっと多くの人たちに聴かせたい」と口々に話していった。

こうした意見発表会は青少年の考えを知るには最適の場であるわけですが、ただうなずいて聴くだけでなく、彼らの夢が実現できるように努力することも大切といえるようです。

けいせい

■戸籍の窓 ■(敬称略)



誕生おめでとう
ごさいます

(日向) 嶋倉 玄治 大二郎

(上親田) 古田 芳春 裕二

ひとみ (長男)



いつまでも
おしあわせに

(四月) 一先月掲載がも

れましたことを、深くおわ

びします。

神戸 正康 (平)

西川美都里 (愛知県)

(六月)

嶋田 民雄 (宮代)

森山さとこ (岐阜市)



おくやみ
申しあげます

山口 久市 77歳(西 洞)

伊在治由市 77歳(下親田)

今井 明夫 49歳(柏 本)

■善意の寄付 ■(敬称略)

『社会福祉費』

寄稿

ひたすら走る

安江 宏二 神付

◇ ◇ ◇

全国各地で選ばれた勤労青年が長野の富士見高原に集合。ことしで第八回、全国勤労青少年十マイル(約十六キロ)マラソンのスタートまであとわずか。当日は、最近のジョギングブームを反映してか、約三百人が参加。君原健二氏(オリンピックマラソン二回入賞)の特別参加もあって、大会はいっそう盛り上がりました。

◇ ◇ ◇
大会を終えての閉会式はどしやぶり。その中で、君原選手は「みなさん、自分との戦いの結果はどうでしたか。マラソンはよく人生にたとえられます。これからも、いっしょうけんめい働き、元気で走り続けてください」と話されました。

この日の優勝者は大会新記録

を出して大会に花を添え、君原選手は十八位、私は二十三位でした。

さて、この大会に参加することになったきっかけからお話ししてみたいと思います。

走ることを覚えて三年ころのこと。毎日のランニングは「あそここの橋まではあと何分、あと何周、もう何分……」と、ときどきとして襲ってくる苦しさに、自分をだましながら足を運ぶというものでしたが、大会を目標に「あの大会までは……」という心が自分を支えてきました。

大会のあとは、結果はどうあれ「これだけやったんだ」という満足感が得られ、一つの大会を節に次の大会への新たな目標をもって「次はきつ」と意欲を湧きたたせてきました。

こうして私は、走る世界にどんどん引き込まれて行きました。気がついたら私も二十五歳になり、年齢制限のある今回の大会への参加はことしが最後のチャンスと知り、あわてて申し込んだのです。

目標を得るといふことは、目の前がふと明るくなったように感じられるものです。

ことしの一月から三月にかけては自分なりによく走りました。

三月二十九日の信濃毎日マラソン(長野市で開催)四十二・一九五分完走といふ目標があったからです。

「走る」ことを通して私のほんとうの目的は「完走すること」ではなく「走り抜く経験」だと気づきました。

全国勤労青少年十マイルマラソンを経験できたことはほんとうに有意義なことだったと

思っています。参加者はみんな、走ることに共通の喜びをもった者はかりです。大会には、多くの人との出会いやライバル、先輩後輩の関係も生まれてきます。これもまた一つの楽しみです。



ゴール直後の私
—五月二十四日
富士見高原(長野)で

私は、これからも「走る」を友として、心の支えとして、そして何よりも自分を鍛える一つの方法として、いつまでも続けて行きたいと思っています。

- 現金五万円—田口政春(西洞)
同一万円—今井和好(柏本)
同三万円—安江賢二(平)
- 『東白川中学校へ』
ぞうきん・来客用スリッパ二十足—神戸婦人会
- 『東白川小学校へ』
松葉ポタン苗二百株—安江貞一(日向)、湯飲み茶わん百個—岩田一夫(瑞浪市日吉第二小学校PTA)
- 『中央公民館図書室へ』
図書二冊—安江巳保(上親田)
同一冊—森藤市郎(平)、同百五十七冊—松岡昭三(萩原町)、同十一冊—田口英子(下親田)、同十八冊—はち植え六はち・手製しおり三十枚—栗本房子(平)
- 表彰■
○今年度の加茂地区歯の優良児に、東白川小学校の二人が選ばれ、表彰を受けました。受彰者は次のとおりです。
(加茂地区学校歯科医師会長表彰) 村雲治幸君(六年)
(加茂地区学校保健会長表彰) 今井千恵さん(六年)
○創立三十周年記念県母子寡婦福祉大会が、七月二日に岐阜市で行われ、優良母子家庭の母として安江ゆきさん(宮代)が、県母子福祉会長表彰を受けられました。

郷土への認識深めよう

村誌解説講座がスタート

公民館講座に今年度新たに村誌解説講座と読書講座が開設されました。

村誌解説には十八人、読書には十四人の申し込みがあり、このほど開講式とあわせての第一回の講座が開かれました。今回は、その中で村誌解説講座をとり上げ紹介してみましよう。

この講座は、昨年に秋に発刊された「新修東白川村誌」史料編をテキストに、厳しかった歴史を越えてきた先祖の努力や苦労を知り、郷土への理解と認識を深めよう——というものです。

年八回の講座が予定されており、講師は、村誌編さん常任委員の田口耕作さん（中谷）。

第一回は六月十一日に村民センター三階の経営相談室で開かれ、この日の学習は「享保年間の山論事件について」。当日は、村誌史料編のほか、当時とりかわされた古文書の写しをテキストとして、境谷山論事件のあらましや古文書の解説方法など盛りだくさんの内容を学習し

ました。

参加した受講生らは▽村誌を購入したが内容を理解することはむずかしい。この講座が開かれるのを聞いてまっ先に申し込んできた。学習する機会をつくってららって感謝している▽講座を通じて村のおいたちや昔の生活様式を知りたい▽村の歴史を大きく変えた廃仏毀釈（はいぶつきしやく）の全容を知りたい——などさまざま。

受講生も、ある程度知識のある人から、村に嫁いで間もない人、年齢も二十七歳から七十歳まで幅広く、学習したい内容がまちまちなため、今後は講師生の意見を聞きながら、テーマを決め、進められるようです。

◇ ◇

村誌解説、読書の両講座ともに新規申し込みを受けつけています。ぜひ私も……とお考えの方は教育委員会（有線二一七二）へお申し込みください。

秋まきの野菜

もうすぐ秋まき野菜のシーズンです。

家庭菜園で作りやすく、用途が広いので人気のあるサラダ菜やレタスは八月下旬から九月に種まきをしますが、酸性土壌を修正するために三週間前に石灰を散布しておき、二〜一週間前に元肥を施しておきます。

種まきの当日は、床土が乾いているようなら水で湿らせてから行いますが、雨上がりの土の湿っている日を選ぶと手間が省けます。

また、まいたあとは、上にビートモスや腐葉土などをのせて発芽まで水やりをし、湿り気を絶やさないようにしてください。ほかの野菜についても、この二つの注意は同じです。

発芽し、苗が育ったら、十五〜間隔に定植し、十日に一度くらいの割合で有機液肥などを追肥します。

このほか作りやすいのは、生食に適した甘みのある赤タマネギ、小型なので容器栽培もできる生食用青ダイコンなどです。種まき時期はいずれも八月中旬から九月中旬にかけてです。



村誌史料編をテキストに熱心な学習が繰り広げられた村誌解説講座

—村民センター経営相談室で

村民センターでの開票風景



投票率は73%

参院岐阜地方区補選

浅野拡参院議員の死去による参院岐阜地方区補欠選挙は、六月二十八日に投票が行われ、投票率は七三・三六%でした。夜七時から村民センターで行われた即日開票の結果は次のとおりです。

■参院岐阜地方区補選

投票総数 二、〇四六
 有効投票 二、〇二五
 無効投票 二一
 (有効投票の内訳)
 杉山れいじよう 一、六一六
 杉原 恭三 一四一
 高橋 かん 二六八

投票所	投票率 (%)
神 土	76.43
神 付	71.68
越 原 下	70.18
越 原 上	70.36
五 加	75.40
計	73.36

投票所別投票率

白ろう病の防止を 巡回指導員に田口さん



田口幸生さん

チェーンソーなど振動工具類の使用に伴う振動障害(白ろう病)は、機械の改善などによって減ってはいますが、

まだまだ多いようです。そこで村では、この防止対策を——と、今年度から巡回指導を行うことになりました。巡回指導員は東白川村森林組合の田口幸生さん(有線2616・☎2229)です。田口さんの任期は3年。事業所や家庭を巡回し、対象者の把握や労務改善、健康管理の指導など行っていただくことになっています。お気軽にご相談ください。

最近、女性にも酒を飲む機会が多くなり、量の多少はともかく、全国で約五千三百万人もの人たちがアルコール飲料に親しんでいるといわれています。つまり飲酒は紛れもなく、私たちの日常生活の一部となっているわけです。

アルコール飲料を「飲む」「飲まない」の選択は、成人なら個人の自由ですが、その飲み方を誤ると薬物作用で個人的にも社会的にも害のある心身の障害をもたらす可能性がありま。今回は飲む人が健康的に飲酒する方法を紹介します。

体内でどうなる

アルコールは体内に入り次のような変化をします。

▽速やかに胃腸から吸収され、血液に入って数分のうちに全身にしみわたる。胃の中に食べ物があると吸収がおくれる▽脳のコントロールをマヒさせ、多量のアルコールでは死亡▽アルコールは九〇%

暮らしと健康



適正飲酒

以上が肝臓で分解され、吐く息や尿、汗からはわずかしこ排せつされない。

二日酔い予防のポイント

▽酒を飲む前に牛乳や油こいものを食べておく▽適量を自分のペースで飲み、ほろ酔いでストップ▽チャンポンは要注意。

適正な飲み方

▽まわりの人たちとおおらかに笑いのでるふんい気です。自他ともに楽しく▽無理強いをしない▽時間をかけてゆっくりと飲む▽食べながら飲む▽おそくても夜十二時にはストップ▽毎日続けて飲まない。週に二日は酒なし日を▽薬(睡眠剤、安定剤、糖尿病薬など)といっしよに飲まない▽強い酒はうすめてから飲む。

◇ 次回は「夏の健康」を予定しています。

第25回加茂郡消防操法大会

第一分団が優勝

県大会への出場権獲得

第二十五回加茂郡消防操法大会が、白川町・白川中学校グラウンドで行われ、本村から第一分団、第三分団の自動車ポンプ

が出場し、第一分団が優勝、第三分団が準優勝という輝かしい成績をおさめました。

この大会は、郡下の消防団員の操法技術の向上と士気高揚、さらには非常時の適切な活動の確保をねらいとして、郡消防協会主催のもと、小型動力ポンプ

と自動車ポンプの操法大会を毎年交互に行っているもので、今回は自動車ポンプの部が行われました。

この大会に備えて、四月から訓練を重ねてきた第一、第三の両ポンプともに順調な仕上がりをみせ、万全な態勢で大会にのぞみ、みごと第一分団が優勝、第三分団が準優勝となりました。この陰には、選手役員の連日連夜にわたる練習と全団員の盛

り上げ、そして、職場や家族のみなさんのご支援とご協力があったの成果といえましょう。

優勝した第一分団自動車ポンプは、八月二日、恵那郡山岡町で開かれる県大会に出場することとなり、引き続き訓練が続けられています。今後もしつそうのご支援ご協力をお願いします。

成績は次のとおり。(敬称略)
優勝 第一分団自動車ポンプ
(指揮者) 藤井昭司、一番員 田口眞澄、二番員 安江政辰、三番員 安江和広、四番員 安江政敏

準優勝 第三分団自動車ポンプ
(指揮者) 今井武司、一番員 熊沢政尚、二番員 今井章、三番員 松岡安幸、四番員 田口和志)



優勝した第一分団(写真上)と準優勝の第三分団の選手
—白川中グラウンドで

暮らしのカレンダー

※ふるさと教室(第2回)

- ・とき 8月5日 8:30~
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 小学校5年生
- 学習内容は「村に伝わる伝説と民話」の予定

※第10回子ども会ソフトボール大会

- ・とき 8月9日 8:00~
- ・ところ 小学校
- 単位子ども会対抗。4年生以上の小学生がチームを編成して試合します

※村誌解説講座

- ・とき 8月13日 1:00~
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 講座生

※第5回村民バレーボール大会

- ・とき 8月16日 8:30~
- ・ところ 中学校体育館
- ・対象者 一般男女、家庭婦人
- 中学校卒業年度別対抗です。多数ご参加ください

※フツッ塗布

- ・とき 8月19日 1:00~
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 菌のはえ始めから3歳児までの希望者(有料)

※ふるさと教室(第3回)

- ・とき 8月19日 8:30~
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 小学校5年生
- 学習の内容は「むかしの遊び」の予定

※乳児相談

- ・とき 8月20日 1:00~3:30
- ・ところ 母子センター
- ・対象者 生後3~5か月児

※3歳児健診

- ・とき 8月26日 1:00~1:30(受付)
- ・ところ 東白川病院
- ・対象者 53.3.1~54.2.28生まれの幼児

※ふるさと教室(第4回)

- ・とき 8月28日 8:30~
- ・ところ 村内
- ・対象者 小学校5年生
- 村内めぐりを予定しています

新刊紹介



窓ぎわのトットちゃん

黒柳徹子

「第二次世界大戦の終わるちょっと前まで、東京に実際あった小学校と、そこに通っていた女の子の話です」と、この本のとびらに書かれています。

著者はテレビなどで活躍中の黒柳徹子さん。彼女の小学生時代の思い出をつづった自叙伝的エッセイです。

小学校1年生で退学になってしまったトットちゃん（著者）が、次に通いはじめた学校が型やぶりの教育の「トモエ学園」でした。

その学園の校長先生との出会いや、仲間たちとのふれあいは、彼女の人生に多大な影響を及ぼしたようです。

いわさき ちひろさんの絵がところどころにそう入されていて、大人の絵本的な楽しみもある一冊です。（好

新設しました 広報コーナー

中央公民館図書室

村民センター4階の中央公民館図書室内に、このほど広報コーナー（写真）が設けられました。これは、毎週金曜日の図書貸出日以外は本だけが閉ざされるため、会議や集会の待ち時間、休けいなどにロビーを利用して読みものがなく、気軽にいつでも読めるものを——と新設したものです。

ロビー中央のロッカーの一部を開けて作ったこのコーナーには、全国広報コンクールで特選となった「広報かわべ」（54年度）や「広報大和」（55年度）をはじめ、加茂・可児郡の各町村広報紙、遠くは北海道や東北のものまで約20種類が備えられています。

このコーナーは、いつでも、だれでもご自由にご覧いただけるものですから、どしどしご利用ください。また、同コーナーには村の文化協会が発行する「ふきのとう」や青年団発行の「わかあゆ」も備えられています。



揚げる。

あじ八尾は頭をとって背開きにし、塩、こしょうをふり皮を下にしてマナ板の上におき、小麦粉少々をふり、青じその葉一枚をのせ、しんに玉ねぎのうす切りとしょうがの千切り少々をのせてくると巻きようじで止める。小麦粉、とき卵、パン粉の順につけて揚げる。

あじのしそ巻き揚げ

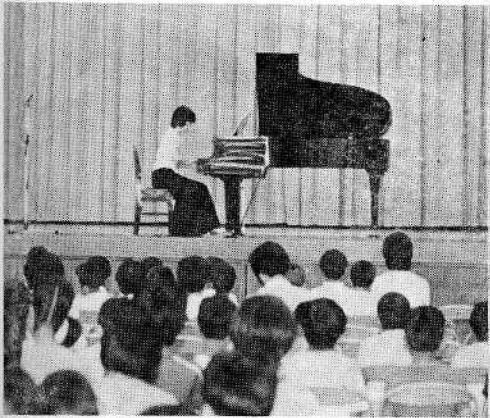
四人分

①むきエビ二百匹は、うすい塩水で洗って背わたをとり包丁でたたいて細かくつぶしすりばちにとって酒、塩、片栗粉各少々を加えてすり混ぜる。②食パン四枚は耳をおとして三割角に切り、片面に片栗粉をつけてエビのむき身をこんもりとはりつけ、パセリのみじん切りを散らして、熱した油でカラリと揚げる。

エビのすり身パン揚げ
四人分



▽今月の料理△



東白川村民の誓い

わたしたちは、東白川村民です。先人の遺業に感謝し、誇りをもって明るく住みよい村をつくりまします。

- 一、気持ちのよいあいさつをかわし、あたたかい心のふれあいを大切にします。
- 一、健康なからだをつくり、明るい家庭を築きます。
- 一、働くことに喜びをもち、豊かな村づくりに励みます。
- 一、美しい自然を愛し、うるおいのある村を育てます。
- 一、教養を高め、かおり高い文化の村づくりに努力します。

生の音にうっとり

東白川小でピアノリサイタル

6月13日、東白川小体育館でピアノリサイタル(写真)が行われました。

リサイタルの主役は、隔谷嗣子(すみやつぎ)さん。2、3年前に修業のためアメリカへ留学。現在は東京に住んでピアノ修業中の若手ピアニストです。

当日は、ベートーベンの「エリーゼのために」やモーツアルトの「トルコ行進曲」など交響曲約10曲を独奏され、生の音楽を聴く機会の少ない子どもたちは、美しいピアノの音色にうっとりとして聴き入っていました。



すくすく育て

お茶つみはまかせて!!

村雲 ゆかちゃん(55. 4.7生)
柏本 村雲利治・恭子さん長女



あなたの作品をお寄せください。

- ・初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。
- ・毎月末までに、三島良田口に出してください。

○蓬の葉しようぶ忍冬入れて焚く老の節句は菖蒲湯に足る

○押し分けて葛の葉群をわたり来る梅雨の晴れ間の一時の風
五加 三戸 ぎり
五加 安江と志江

○「広報」に伝説民話よみがえり懐しきかな子らにも聞かす
五加 古田 光男

○紫陽花の色に出でつつ降りつく日厠に立てば足裏重し
伊藤 重雄

○法蓮草の種子を揉みいる梅雨暗れ間ゴム手袋に痛くさされる
神土 村雲 傅三

○減反に余儀なく蒔きしハトムギに茂る雑草除るに手間どる
神土 早瀬 勇造

○照り映ゆる川に夕焼け眩しくて昔もかくやと思ふ何ゆえ
神土 今井 惣十

○うっとりしき梅雨に負けじとステレオの奏でる曲に蠅が出て舞ふ
神土 安江 守平

○墓参りする人もなきみ祖らのみ霊安まれと供養碑を建つ
神土 今井 統子

○盆栽のハウスに入れば満開の蜜柑の花の高き香にあふ
神土 小池いちの

○街に住む姉妹達に白川茶おくりてひとり心は和む
神土 田口かず子

○妻と呼びし人の面影きりきりと米研ぐ水に浮び来る夕べ
越原 安江 香

○朴葉ずし作りて待たむ一ト月の療養終へて帰り来夫に
越原 安江 幸

○減反の田に飼ふ鯉を狙ひつつ鳶が舞ふなり梅雨の晴間を
越原 加藤 公一

○朝々を女の人は干竿に背伸びして干す自負あるごとく
越原 田口 圭二

○耕して生くる誇りは貧しきにつながらる世とは知れど悔なし
越原 山川 洵

○一点を見つめて静止せる矮鶏が身を絞りつつ昼の刻を告ぐ
田口 良三